

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470300411		
法人名	九州キリスト教社会福祉事業団		
事業所名	いずみの園グループホーム		
所在地	大分県中津市永添2744		
自己評価作成日	平成26年6月1日	評価結果市町村受理日	平成26年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成26年8月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者との関わりの中での職員の気付きを現場に反映させ、生活の質の向上へつなげるという意識付けをしている。利用者の生活支援ではできることを大切に、利用者の持っている力が十分に発揮出来るような活動機会や、動機付けを行い、達成感、自信や誇りのある暮らしを支援している。また、理念に基づいたケアを提供する中で、定期的に管理者や上司と悩みや課題、業務の改善提案等について面談の時間を設けることで、職員のやる気を育てる努力をしている。職員一人ひとりが自己の目標を持ち、介護技術の向上や資格取得に取り組んでいる。また、利用者の重度化が進む中、専門職からのアドバイスや指導により、リハビリの視点や実施もケアに導入し、身体機能の維持に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・利用者が安心して穏やかな暮らしが楽しめるように、環境面の整備に力を入れている。くつろげるリビングルームのソファや食卓の椅子、自室はその人らしい家具が置かれ、家族の写真や馴染みの品で飾り付けされている。  
 ・利用者との関わりを大切に、職員の気づきを書類やミーティングで反映させ、利用者のケアや生活の質の向上に役立っている。  
 ・重度化が進む中、チームケアを活かしてリハビリや外出、レクリエーションなどに取り組んでいる。利用者の持つ力が発揮させ、達成感が得られるような生活支援を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で創ったケア理念がある。理念は全ての職員が目にとまる場所に掲示し、日常的に意識することで実践に努めている。また、管理者と個別に面談を行っており、ケア理念の共有に努めている。	職員全員でつくった理念を日常的に確認し、ケアをおこなっている。また、これから目指すべきケアを考え、理念の見直しも職員で話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々と合同で盆踊り大会を開催したり、お祭りや防災訓練なども地域の方々の協力を得ながら行っている。また、ボランティアの方を招き、コンサート等を行って頂き、交流を図っている。	地域住民との緊密な交流があり、盆踊りなどの法人のイベントにも多くの人に参加し、手伝ってくれている。ふだんもボランティアの演奏会などでグループホームを訪問してくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームページや広報誌等に取り組みや特色等を掲示し、地域の方々に目にして頂ける場を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、利用者状況や活動を報告している。会議で出された意見は全体で情報を共有し、サービスの質の向上に活かしている。	2か月に一度開催し、運営状況の報告を行って会議録も整備している。参加者から、防災面で住民の協力を仰ぐために建物の構造などを知ってもらうよう意見が出るなど、活発な議論が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者には入居者の状況や待機者の情報などを随時報告している。グループホームの運営等で疑問に感じたことは気軽に相談することができ、指導していただいている。	運営推進会議や日ごろの活動を通じて、市の担当者と気軽に相談できる双方向の関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	部署内の勉強会や園内研修において身体拘束についての研修を実施している。	身体拘束についての研修を行い、職員は正しい理解をしており、施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。夜間の立ち上がりセンサーを使用の場合は家族から承認をもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	部署内の勉強会で虐待防止についての研修を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体研修で学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にグループホームの役割や契約内容について十分な説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回家族交流会を開催し、利用者、家族の意見を聞く機会を設けており、運営推進会議や部署内の定例会議で報告している。また、交流会の中で家族の意見が遠慮なく出されるように配慮している。	年に1回、家族会を開いて日常生活の様子などの報告をし、意見を聞いている。家族が意見を言いやすいように、家族だけの時間を取るなどの工夫をしている。出た意見は検討し、必ず事後の報告を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の中での気づきや、定例会議時や面談時にも積極的に意見を引き出すよう努めている。また職員から出された意見や改善提案は現場に反映している。	職員と管理者は日ごろからよく話し合い、職員の気づきや改善点などをミーティングで共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課等で職員個々の勤務状況を把握し、職員がやりがいを持って働ける環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設全体で毎月テーマ別研修を行っており、部署内においても勉強会を実施している。レポート提出もしている。また外部研修へ参加する機会を作れる努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会等で同業者との交流や意見交換や情報交換を行い、質の向上に努めている。また、職場内でも交換研修を行っている。ネットワーク作りや相互の事業所での課題や取り組みについて共有している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の調査や面接において本人の要望や困っていることに耳を傾けながら、安心を確保する為の関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在困っていることや不安に思っていることについて聞き取るよう努力している。利用に関しての不安や希望等についても聞きとりながら事業所として出来ることを説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	直接的な相談を受けることは少ないが、必要に応じて居宅支援事業所や他のサービスを紹介する等の対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活者の一員として好きなこと、出来ることや得意なことに働きかけながら、職員が助けていただいたり、教えていただくような場面作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族から利用者の過去の生活状況や好きなこと、嫌いなこと等の情報収集に努め、ご家族の希望やニーズに応えながら利用者の生活支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの場所や自宅、スーパーや美容院、郵便局へ出向いたり、昔からの友人や知人が訪ねてくることもある。	日常の関わりの中から利用者の思いを汲み取り、馴染みの人や場所などへ出掛けるなどしている。また、家族にも働きかけ、帰宅や外出の機会を作ってもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やティータイム時に様々な話題を提供し、利用者同士が会話を通じて関わりを持ちながら支援している。意志疎通が困難な場合は職員がクッション役となっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了した後も関わりを持ち、必要に応じた相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとりひとりの過去の暮らし方や希望、意向はご家族からの情報をもとに本人がどんな暮らしをしたいのか、何をしたいのか本人に聞いたり、日々の関わりの中から観察している。	生活シートを作成し、希望や意向に沿った暮らしができるよう、職員全員で取り組んでいる。台所仕事をしたいという利用者には、準備や片付けなどの作業を職員と一緒にやっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や昔の暮らし方等はご家族から情報を提供していただいている。入居以前の関わりが深い人から本人の得意なことや苦手なこと等の情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様々な力が発揮できる機会や環境を作り、本人の出来ること、出来ないことの把握に努めている。環境に配慮し、本人の負担にならないように促すことで、利用者の出来ることの発見に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いやご家族の希望に耳を傾けながら介護計画の作成を行っている。専門分野からの意見も参考にしながら、毎月カンファレンスを実施し職員の気付きを生活支援に反映させる努力をしている。	毎月、定例会議でモニタリングを行い、本人の状態や思いに沿った介護計画を作成している。介護計画が実施できているかの検証を行い、変化があった時は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録用紙に気づきを記入する欄を設けており、その気付きを共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	重度化への取り組みとして、専門職(OTやPT)から介護方法の助言、ケア環境の見直しの助言、リハビリの実施を受ける機会を設けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の持っている力を発揮できる機会、動機付けを行いながら、生活を楽しむことができるように支援している。園内の各事業所での音楽会などの参加支援も随時で行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内に診療所があるが、主治医は本人、ご家族の希望で決定しており、定期受診、突発的な受診は全て支援している。	主治医は本人や家族の希望で決めることができ、利用者2名が法人外のかかりつけ医にかかっている。受診は職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	業務の委託契約をしている訪問看護ステーションやクリニックの看護師に相談しており、緊急時の対応や病院受診の必要性についての判断も相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員が病院まで付き添い、病院側へ本人の生活状況や既往歴などを伝えている。ご家族と相談し夜間の付き添いの手配を代行したり早期に退院できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態の変化に伴い、その都度ご家族と相談しながら対応を考えている。重度化した場合でもご家族や主治医と話し合いを行いながら方針を共有している。	契約時にグループホームの終末期の指針を示し、家族に説明して話し合いを行っている。重度化が進み、家族が希望すれば特養などの住み替えができるが、意向を確認しながら主治医を交えて話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	園内研修や部署内の勉強会、救急法の講義等で急変時の対応や応急手当について学ぶ機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体での避難訓練を年2回防災委員会が中心となり実施している。災害時の備品や食料、飲料も確保出来ている。2012年度はGHより夜間出火想定で訓練を実施した。	法人全体での年2回の防災訓練に参加し、日頃から話し合っ地域にも呼びかけている。法人内に3日分の食糧等の備蓄がある。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーに配慮し、本人にとって理解しやすく心地良い言葉かけや対応を心がけている。会議や面談の中で点検、指導している。	利用者のプライバシーを大切に、支援時には声をかけたり、意向を聞いてからケアを行っている。その人の誇りを大切にするよう、管理者はいつも職員に話している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で活動する前に必ず本人の意思を確認するよう努めている。職員や施設の都合ではなく利用者本人が決定する機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活ペースに職員が合わせながら支援している。起床時間もばらつきがあり、食事場所も本人の意思を尊重している。外に行きたい、買物に行きたい等のニーズに応えられる勤務体制をとっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについては本人の意思を尊重しながら出来ない部分を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一部業者へ委託し食事意見は給食会議で伝え改善している。月に一回は利用者の要望を取り入れ、全メニュー食事作りを行っている。	外部の業者に委託して食事を運んでいるが、朝ごはんと昼、夜の汁物はグループホームで作っている。職員全員が同じ物を食べ、食事会議で意見を述べ、改善を求めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量は記録し、その情報を職員が共有している。食事摂取量が低下している場合は本人の好きな物を提供したり、間食で補っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に義歯洗浄や歯磨き、うがい等の声かけ支援を行っている。また義歯は定期的に消毒して清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンの把握に努めている。随時、定時の声かけ誘導を行いながら失敗しないよう配慮している。尿意、便意の意思表示がうまく出来ない方は表情や行動を観察しながら確認している。	排泄パターン表で把握して声をかけ、トイレで排泄するようにしている。失敗をした時には、気づかれぬように支援することを徹底している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療機関と連携しながら排便のチェックを行っている。自然な排便を促すよう食事に配慮したり(牛乳)、マッサージを実施している。主治医の指示で薬でのコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に応じ13時30分～16時までの間に主に実施。随時声かけしながらタイミングを削っている。入浴できない場合は足浴、清拭、衣類交換等行っている。浴室環境にも配慮し、個々に合わせ使用物品を考慮している。	午後からの時間帯でゆっくり入浴ができるよう、毎日お湯を立てている。リフト浴の人も入浴を楽しめるよう浴室の環境を整え、入浴剤やシャンプーを好みの物にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が休みたい、また休息が必要だと感じた場合はゆっくりと休めるよう支援している。夜間入眠が困難な場合は不安要因を考えながら個別に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が利用者の服用している薬を把握できるように薬剤の説明書を台帳にファイルしている。日常生活を観察し、状態の変化があれば主治医へ相談し健康管理に努めている。服薬の確認は職員が行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別の趣味活動を把握し、絵画、習字、裁縫、編み物、食事作り、ドリル勉強等、利用者の得意分野の力の発揮と楽しみごとの提供に努めている。また、外出の希望にも柔軟に対応している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	少人数ではあるが毎日外出できる勤務体制を整えている。家族を招いて一緒に盆踊りやクリスマス会、餅つきなどの行事参加の機会も支援している。	全体での外出のほか、散歩や買い物に少人数で出かけている。急な外出希望にも応じられるような職員の勤務体制をとっている。家族にも外出支援をお願いしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は全面的に職員が支援しているが、自分で買いたいものを購入する機会もあり、ご自分で財布を管理されている方もいる。お金を持ちたいという当然の欲求には柔軟に対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じてご家族に電話する支援を行っている。またスタッフと一緒にご家族へ手紙を出す(年賀状や暑中見舞い、その他の手紙)支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には使い馴染みのある家具や物品を使用できるようにしており、共有スペースは四季折々のあたたかみのある空間づくりに努めている。また、利用者と一緒に摘んできた花等を飾ったりしている。	共用スペースは落ち着いて過ごせるよう、物品の配置や隣り合わせの人に配慮して場所を決めている。温かみのある置物や季節の花、外の眺めなど、居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	完全にひとりになれる個室、人の気配を何となく感じられるスペース、他者と積極的に交流できるスペースがあり、状況によって使い分けながら支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れたものや、本人の好みに合わせてご家族と相談しながら居心地の良い環境作りを行っている。	なじみの家具やテーブル、椅子などが置かれ、家族の持参した置物や写真が飾られて、利用者が落ち着いて過ごせる自室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面に配慮しながら理解しやすい環境作りに努めている。各居室には表札(氏名の表示)があり自分の名前を確認することもできる。また、戸や表札に目印となるような飾り付けも、区別がつくように工夫している。		